

障害児通所支援において定員を超過して 児童を受け入れる際の留意事項

仙台市障害者支援課 施設支援係

仙台市障害者支援課 施設支援係です。
障害児通所支援において定員を超過して児童を受け入れる際の留意事項についてご説明いたします。

目 次

1.定員超過利用減算について

- ①定員超過利用減算とは
- ②③減算の要件
- ④定員を超えて利用者を受け入れる場合

2.定員超過時の基準人員について

- ①基準人員（※児童指導員または保育士）
- ②定員を超えて利用者を受け入れる場合

こちらの目次に沿って、順にご説明いたします。

1. 定員超過利用減算について①

【定員超過利用減算とは】

- ・ 指定障害児通所支援事業所において、一定の範囲を超えて、利用定員を上回る障害児を利用させている場合、障害児通所給付費等の減額を行うもの。

3

まず、定員超過利用減算について、説明いたします。

令和3年度の会計検査院の検査により、定員超過利用減算が適切に算定されていない事業所が複数確認されました。

返戻となる事例であったため、今回、集団指導の間でも改めて定員超過利用減算について説明いたします。

定員超過利用減算は、読んで字のとおり、一定の範囲を超えて、利用定員を上回る障害児を利用させている場合に給付費の減額が行われるというものです。

減算となる要件については、次のスライドのとおりです。

1. 定員超過利用減算について②

【減算の要件①】

- ・ 1日の利用者数が定員の150%を超える場合



当日の利用者全員 30%の減算

4

減算の要件は、2つあります。どちらか1つでも該当すると減算となりますので、ご注意ください。

まず1つ目は、1日の利用者数が定員の100分の150、つまり150%を超える場合です。

例をあげますと、10人定員の事業所で16人預かると、定員の150%を超えたことになります。

この場合、その日1日の利用者全員に対し、30%の減算を適用して給付費請求する必要があります。

1. 定員超過利用減算について③

【減算の要件②】

- ・ 過去3か月の利用者数の平均が定員の125%を超える場合

※定員が11人以下の場合は、定員+3人を超える場合



当月の利用者の全員、全日30%の減算

5

次に、2つ目の要件です。

こちらは、直近過去3か月の利用者数の平均が、定員の100分の125、つまり125%を超える場合（定員が11人以下の事業所の場合は、定員+3人を超える場合）です。

この場合、当月での利用者全員の全日分に対し、30%減算が適用となります。減算は定員超過の状況が改善されるまで適用しなければなりませんので、3か月の利用者数の平均が125%を超えなくなった月まで減算となりますのでご注意ください。

例をあげますと、利用定員が10人の事業所で、4月から6月の開所日数が22日の場合、

$(10人 + 3) \times 22日 \times 3月 = 858人$

となるため、4月から6月の受入可能延べ障害児は858人ですが、総延べ障害児数がこの858人を超える場合には、7月の利用者の全員、全日分が減算となります。

また、利用定員が20人の事業所で、4月から6月の開所日数が22日の場合、 $20人 \times 22日 \times 3月 = 1,320人$

・ $1,320人 \times 1.25 = 1,650人$ （受入可能延べ障害児）

となるため、4月から6月の受入可能延べ障害児は1,650人ですが、総延べ障害児数がこの1,650人を超える場合には、7月の利用者の全員、全日分が減算となります。

1. 定員超過利用減算について④

【定員を超えて利用者を受け入れる場合】

- ①日ごとに定員超過利用減算の要否を確認する
- ②過去3か月の利用状況を考慮し、定員超過利用減算の要否を確認する

**【別紙1】 障害児通所支援事業所における定員超過
利用減算対象確認シート を活用**

6

したがって、定員を超えて利用者を受け入れる場合は、スライドのとおり2点について、各事業所で確認をする必要があります。

まず、日ごとに定員超過利用減算の要否を確認してください。

先のスライドで説明した通り、日ごとに定員の150%を超えていないかの確認が必要となります。

次に、過去3か月の利用状況を確認し、定員超過利用減算の要否を確認してください。

こちらも先のスライドで説明した通り、過去3か月の平均が定員の125%（定員11人以下の事業所については定員+3人）を超えていないかについて、都度確認が必要となります。

なお、3か月を通した平均で計算しますので、1月ごとに計算して直近3か月がどうだったかではなく、直近の3か月の利用者数の合計人数を、3か月の開所日数の合計日数で割ることで平均を計算しますので、お間違えのないようお願いいたします。

これらを確認するための「障害児通所支援事業所における定員超過利用減算対象確認シート」が、厚労省より発出されておりますので、そちらをご活用ください。

2. 定員超過時の基準人員について①

【基準人員（※児童指導員または保育士）】

- 1人以上は常勤
- 合計数が以下の区分に応じて定める以上
 - ・ 障害児の数が10人まで : 営業時間を通して常勤換算で2人以上
 - ・ 10人を超えるもの : 上記に加えて、児の数が10を超えて5又はその端数を増すごとに常勤換算で1人以上

7

続いて、定員超過時の基準人員について説明いたします。

ここでいう基準人員とは、直接処遇職員であり、「児童指導員または保育士」のことを指します。

まず、基準人員は、必ず1人以上が常勤である必要があります。

次に、障害児の数が10人までの場合、営業時間を通して常勤換算で2人以上を配置する必要があります。

10人を超える場合は、「営業時間を通して常勤換算で2人以上」に加えて、児の数が10を超えて5又はその端数を増すごとに常勤換算で1人以上配置する必要があります。

つまり、児童の数が10人までは2人、10人を1人でも超えた場合は3人の基準人員が必要となります。

2. 定員超過時の基準人員について②

【定員を超えて利用者を受け入れる場合】

- ・ 定員超過利用減算の有無に関わらず、
実際の利用人数に応じた基準人員の配置が必要

(例)10名定員の事業所の場合

10人利用の日：基準人員は営業時間を通じて**2人**

11人利用の日：基準人員は営業時間を通じて**3人**

8

したがって、定員を超えて利用者を受け入れる場合、基準人員が実際の利用人数に応じたものになっているか、日々確認が必要となります。
これは定員超過利用減算の有無によらず、定員を1人でも超過している場合は該当となりますので、ご注意ください。

例をあげますと、10名定員の事業所で、利用児童の数が10人までの日は基準人員が2人、利用児童の数が11人の場合は3人の基準人員が必要となります。
利用児童が11人であっても、定員超過利用減算の適用にはなりません、その日の基準人員は3人必要となりますので、ご注意ください。

私からの説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。